

ウムチョ ムウイーザ通信 No. 16

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

「ADESOC」報告



ウムチョムウイーザ学園

ンザバニータ ムヒーレ ポール教頭より
みなさんこんにちは！はじめまして ンザバニータ ムヒーレ ポールです。2007年1月から学園で勤務させていただいております。

この素晴らしいそして偉大な学園に赴任して、学園を理解するまで時間がかかりました。そして今、みなさまには「本当にありがとうございます」と言いたいです。

今年度が始まってからいろいろ変わりました。

特に先生方のスキルアップ！ 授業が終わってから、14:00～15:30は軽い昼ごはんを食べた後、授業の準備をします。

教育の質を高めるための重要なことです。

学園は、学期の終わりに 21,000 ルワンダフラン（約 4,646 円）を先生に支払っています。これは先生の生活を少しでも助けるためです。出来ることなら一生懸命頑張った先生にはもう少し良くしてあげたいです。

そうすれば、先生方の中で張り合いがでて、やる気が高まります。残念ながら学校には余裕がありません。春休みには1週間の研修を行いました。夏休みにも1週間の研修を計画しています。このような研修は、とても大切です。でも経済的なサポートが必要です。

それから、親と学校の関わりもとても評価しています。素晴らしい協力をいただいています。日本のみなさまのご協力のおかげでこのような素晴らしい仕事出来るのはとてもありがたいです。

たくさんの支援物資も子ども達に配りました。子ども達にとっては本当に奇跡のように大喜びでした。ありがとうございました。

全体的に学校は、発展的に進んでいます。出来ることなら先生方の生活向上のために努力が必要です。なぜなら、ルワンダ政府も公立学校の先生方の給料を上げる予定です。まず、高校の先生方それから小学校の先生方に続きます。

それでは、1回ですべて言えないので、またこの続きを知らせます。これからも、力を合わせて頑張りましょう！

私も精一杯頑張ります。 2007. 7.15



保原町国際交流協会や静岡県熱海第二小学校のみなさんからの衣類や学用品です。子ども達は、「信じられない、一生この毛布を大切にします。」と語っていました。

「ADESOC」と「ルワンダの教育を考える会」の
2007年度（1月～7月）の運営費の報告

＊時価換算による。単位:円

日本からの支援	現地の負担	合 計
1,750,000	1,354,330	3,104,330
56.4%	43.6%	100%

一時は400人を越える子ども達を預かりましたが、残念ながら途中でやめてしまう子どもが今回34人も出てしまいました。継続して学ぶことが難しい状況は変わらないようです。

2007年3月21日現在の学費の納入状況の報告

単位：人

納入 状況	保育学級			小学校										合計
	年少	年中	年長	1年 A	1年 B	2年 A	2年 B	3年 A	3年 B	4年 A	4年 B	5年	6年	
100%	15	14	25	12	6	19	16	15	13	8	14	16	6	179
75%	0	5	6	3	1	0	0	4	1	3	1	3	0	27
50%	0	0	1	1	0	1	0	1	1	0	0	1	0	6
25%	2	2	1	4	0	1	1	2	1	1	2	1	1	19
0%	3	2	8	7	12	7	11	6	12	6	7	14	11	106
その他	3	1	5	0	3	1	2	1	4	1	1	2	0	24
合計	23	24	46	27	22	29	30	29	32	19	25	37	18	361

2007年6月15日現在の児童数の報告

単位：人

転出入の 状況		保育学級			小学校						合 計
		年少	年中	年長	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
1学期の 登録者	女	10	5	19	22	26	36	32	17	7	174
	男	13	19	27	31	33	31	23	20	11	208
やめた 人	女	0	0	0	1	0	8	7	2	0	18
	男	1	0	2	3	0	5	5	0	0	16
転入生	女	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
	男	0	0	1	1	0	0	0	1	0	3
合 計		22	24	46	50	59	55	43	36	18	353

＜ルワンダに到着しました＞

2007.8.11（土） JICA派遣職員 田中真奈

Bonjour！日曜日に到着して、JICAの人と会って、毎日学園に通っています。

ボランティアの湊田さんは、とても熱心で語学も授業も上手です。とても良い人が学園に派遣されていて助かります。今週はオリエンテーションで、授業に出たり、書類を少しチェックしたりしました。来週から本格的に経理を見る予定です。2週間ごとにレポートを送ります。

それではまた！



{被爆ピアノコンサート7/28の感想}

福島大学 榎林

私は、今回このコンサートに参加して、本当に少しだと思いますが、ルワンダについて知ることが出来てよかったです。また、ルイズさんがお話の中で「教育が出来ること、夢を持てること、今回のコンサートのように人々に平和への呼びかけが出来ることは『平和だから出来ること』なのです」とおっしゃっていたことが心に残っています。

まだまだ知らないことばかりだと思います。ルワンダだけにとどまらず、様々な国に目を向けて勉強したいと感じました。

けた。まずはこの事実を受け止め、二度とこのように多くの人が被害を受けることのないようにしていかなければならないと強く感じた。

また、特別講師のルイズ先生から色々なことを学んだ小学生たちの発表はとても興味深かった。困難な生活環境にあっても夢を抱き頑張っているルワンダの子供たちの姿に、福島の小学生も何かを感じて彼ら自身の将来について考え、その視野が広がったのだと思う。このような機会はとても重要であり、もっと増やしていけたらと思った。次に第2部では、ほとんど原爆投下の当時から手を加えていないピアノの音色と、引き込まれるパフォーマンス、そして綺麗な歌声が見事に調和していてとても良いコンサートになっていた。知っている曲もそうでない曲も、会場の観客も一体となってそのハーモニーに感動していたと思う。

親の世代でさえ戦争を経験しておらず、平和で豊かな日本に生まれた私たちは本当に平和ボケしてしまっている。実際に東北に初めて広島の実験ピアノがやってくるというのに、私はそのことをこれまで全く知らなかったし、同世代の観客を見つけることはほとんどできなかった。戦争を知らない私たちだからこそ、歴史や世界に目を向けて戦争の恐ろしさや悲惨さを知る義務があるのではないかと感じた。

このコンサートをきっかけに、私自身の考え方や物事の捉え方が少しだが変化したように感じた。私を含めた1人1人の考え方・感じ方に少しずつでも影響を与え、何か行動に移していくというその動きが世界に広がっていったらと心から思った。

福島大学 金川



このコンサートでは「平和だからこそ…」という言葉がとても印象に残った。平和だからこそピアノを弾いて音楽を楽しむことが出来る、平和だからこそこのような会を開きメッセージを発信できる…このことのありがたさと現代の私たちがとても恵まれていることを改めて気付かされた。

コンサートの第1部では、ルワンダ内戦に関する映像やルイズさんの説明から、当時の恐ろしさを実感した。私が幼い頃に世界の反対側であるようなことが起きていたことに驚き、そしてとても衝撃を受



福島大学 山岸

私は今回のコンサートを聞くまで、平和について考えることもせず、ルワンダという国の場所さえも分かっていませんでした。自分が当たり前のように生きている裏で、戦争によって悲しむ人がいる。

ニュースや新聞でその事実は知っていたし、大学では海外に目を向けるような授業も受けるのですが、私の中のどこかに「無関心」があったのだと思います。しかしルイズさんのお話からルワンダの悲惨な過去を聞きネイザンさんの達の音楽を聴く事で、「平和」というものを考える事ができそうです。

平和だからこそ音楽を奏で、皆が笑顔で生活することが出来る。当たり前だけど今まで目を向けてこなかったことに、今後は自分から関わっていけたらと考えています。

多くの方々のご協力により無事開催することができました。感謝申し上げます。

収益金 59,749 円は学校建設資金として使わせていただきます。

2006年度総会報告

2007年5月13日（日）に総会が、開催されました。ここに2006年度の決算を報告いたします。

今後とも、ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

（単位：円）



収 入	会費	715,000
	事業収入	4,248,209
	寄付金等	5,465,504
	助成金等	90,359
	前年度繰越金	574,831
	収入合計	11,093,903



支 出	事業支出	
	・ルワンダへの教育支援事業	3,926,315
	・自立支援に関する事業	1,784,186
	・その他事業費（給料手当）	1,410,000
	管理費	
	・通信運搬費	473,183
	・支払家賃	421,000
	・その他諸経費	470,034
	支出合計	8,484,718

2007年度への繰越金

2,609,185

決算後、さっそく、100万円を中学校建設資金補助として送金しました。

— おもな議事録報告 —

- 会員皆様のご紹介、学校・公民館・各種団体等からの依頼を受けて、福島県内をはじめ国内各地、計73ヶ所で公演を行い、ルイズ自身の体験から平和の尊さ、命の大切さ、教育の重要性を訴えることができました。
- 各事業からの収益金、ご寄付募金等から、ルワンダへの教育支援として約400万円を送金することができました。また、12月に現地でルイズが学園の現状や今後について話し合ってくる事が出来ました。

— 2007年度役員選出 — よろしくお祈りします。

理 事 長 高橋啓子

副理事長 カンベンガ マリールイズ

理事 倉持睦子

理事 斎藤照子

理事 大寺智子

理事 佐藤満壽子

理事 遠藤信子

理事 矢戸なつ美

監事 大和田紋子

ソーラープロジェクトだより



会員 武藤類子

ルワンダソーラープロジェクトは、2004年に停電が頻発するウムチヨムイーザ学園での電気機器の活用や、夜間に学校を利用して、大人たちが文字を学ぶときの照明を目的として取り組みを始めました。

ルワンダには降りそそぐ太陽光というエネルギーが満ちあふれています。これからの発展に、平和と環境を重視していこうとするルワンダに、この持続可能でグリーンな太陽光という自然エネルギーは、最適だと考えました。

現在までに総額359,383円の寄付と、様々な情報や技術、人とのつながりを得る事が出来ました。2005年には、電池のソーラー充電器、充電電池などのセット10組とソーラー蛍光灯2台をルワンダに送ることができました。また、今年5月に東京マイコープの皆さんから手作りソーラーパネルを福島県交際交流協会からの補助金30万円を頂けたことから、いよいよ学園に100W相当のソーラーシステムを設置することが出来そうです。また、すでに購入してある140W相当のパネルを使って、学園運営のバッテリーチャージステーションも作りたいと考えています。

しかし、パネル以外の機材の購入や取り付けのためにルワンダに渡る旅費が足りません。出来たら10月に実現させたく希望しています。皆様更なるご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、一方で、太陽の熱で料理が出来る



東京マイコープの方から、ソーラークッカーの説明を受けているルイズ

ソーラークッカーの学習会やモニターのためのクッカーの寄贈の話もあり、楽しいソーラーライフをルワンダに送ることが出来そうです。



平和を願って
今回作ってみました

ルワンダ ルワンダ ルワンダ

作詞作曲 大河原伸

ルワンダ ルワンダ ルワンダ
ルワンダ ルワンダ ルワンダ
アフリカの熱い風
赤茶けた大地に
ぼくらの願い 届くように
ルワンダ ルワンダ ルワンダ
いつまでも 平和で

ルワンダ ルワンダ ルワンダ
ルワンダ ルワンダ ルワンダ
百万の魂が 青い空にとけて
涙の大地に 影を落とす
ルワンダ ルワンダ ルワンダ
いつまでも 平和で

ルワンダ ルワンダ ルワンダ
ルワンダ ルワンダ ルワンダ
遠く離れた アジアの街から
僕らの想い 届けよう
ルワンダ ルワンダ ルワンダ
いつまでも 平和で

☆掲示板☆

ルワンダの教育を考える会のパンフレットができました。

1部150円

☆各種振替口座番号のご案内です！☆

会費振込・寄付・募金

郵便振替口座：02290-0-97126

加 入 者 名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会



ソーラー発電…近い将来、教室にソーラー発電機をつけ、電力の確保をしたいと考えています。

郵便振替口座：02200-2-77634

加 入 者 名：ルワンダ ソーラー発電P

HELP

事務局では、事務局スタッフ及び各種イベント開催時、お手伝いくださる方を随時募集しています。(イベント開催時の半日でもOKです。) よろしくお願ひします。

—編集後記—

無言の傷ついた被爆ピアノは広島から福島に来て何を語ろうとしたのか？一人ひとりの心の中に美しく響いた音色でした。多くの方々のご協力に感謝！！

次回はルイズのルワンダ訪問(10月)の様子を報告できるとおもいます。

ルワンダの教育を考える会



理事長 高橋 啓子

副理事長 かべンガ・マリルズ

〒960-8055

福島県福島市野田町四丁目 8-20

TEL / FAX: 024-533-8289

ホームページ: <http://www.rwanda-npo.org>

e-mail: info@rwanda-npo.org